

Sun Server X4-2 プロダクトノート、Version 1.3.1

ORACLE®

Part No: E49349-03
2015 年 12 月

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	7
製品ドキュメントライブラリ	7
フィードバック	7
Sun Server X4-2 プロダクトノート	9
サポートされるハードウェア	9
サポートされるファームウェアのバージョン	10
サポートされているオペレーティングシステム	10
操作に関する重要な注意点	12
▼ 重要 – 最新の OS 更新、パッチ、ファームウェアをインストールする	13
OS またはソフトウェアアプリケーションのダウンロード	14
リセットに長い時間がかかり、サーバーの電源が切れて再投入される	15
Oracle ILOM で使用できる高度な IP 接続設定	15
▼ Oracle ILOM で高度な IP 接続設定にアクセスする	15
Oracle Solaris 10 1/13 では、BIOS 設定ユーティリティの「IO」メニューで 「PCI Subsystem Settings」オプションを有効にすることはサポートされない	17
シングルプロセッサからデュアルプロセッサへのアップグレードはサポートされ ない	17
システムの最新ソフトウェアリリースへの更新	17
組み込み Oracle System Assistant USB フラッシュドライブの上書き回避	18
Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ	19
インストール済みの Oracle VM Server と Oracle VM Manager の互換性要 件	19
HBA ファームウェア更新による UEFI BIOS のサポート	19
64 ビット Linux オペレーティングシステムが稼働しているサーバーで segfault が発生する場合がある	20
ファンモジュールの取り外しと交換を 20 秒以内で行う	20
1 台のサーバーファンモジュールの障害によるパフォーマンス低下	21
スタンバイ過熱防止	21
Ethernet ポートへの MAC アドレスマッピング	21
バッテリーモジュール	22

UEFI BIOS 構成の動作の変更	22
サーバー管理ツール	23
サポートされる PCIe カード	24
解決済みの問題	26
前のプラットフォームソフトウェアリリースの解決済みの問題	26
Oracle Solaris 10 1/13 オペレーティングシステムで Oracle ILOM リモートコンソールを使用すると、システムがハングアップ状態となり、 キーボード入力を受け入れなくなる	27
Oracle System Assistant 回復 ISO ファイルの使用時に、サポートされていない ハードウェアデバイスに関するエラーが表示される	28
Microsoft Windows Server で仮想 Ethernet デバイスが「インストールされてい ません」と報告される	28
InfiniBand PCIe カードを Oracle UEK2 で使用する場合、BIOS オプション VT-d と SR-IOV が有効化されていて、かつカーネルブート引数 <code>intel_iommu</code> が <code>on</code> に設定されていると、IPoIB のスループットが低下する	29
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.4 で Oracle Server Hardware Management Agent が正常に起動されない	29
サーバーの初回リリース時に顧客が 32G バイトの LRDIMM を注文すること はできません	30
StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート Emulex HBA カードは Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムではサポートされません	30
GRUB ブートローダーがシステム内の最初の 8 台のハードドライブからしか ブートできない	31
未解決の問題	33
ハードウェアの未解決の問題	34
Oracle System Assistant の未解決の問題	42
Oracle Solaris オペレーティングシステムの未解決の問題	45
Linux オペレーティングシステムおよび仮想マシンの未解決の問題	48
Windows オペレーティングシステムの未解決の問題	57
ドキュメントの未解決の問題	59

このドキュメントの使用方法

- **概要:**『Sun Server X4-2 プロダクトノート』では、Sun Server X4-2 でサポートされるソフトウェアとファームウェア、および操作に関する重要なガイドラインについて説明しています。このドキュメントには、サーバーに関する既知の未解決の問題および解決済みの問題も含まれています。
- **対象読者:**これらのプロダクトノートは、システム管理者、ネットワーク管理者、および保守技術者を対象としています。
- **必要な知識:**サーバーシステムに関して高い知識を持つユーザーを対象としています。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは <http://www.oracle.com/goto/X4-2/docs> で入手可能です。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

Sun Server X4-2 プロダクトノート

サーバーに関する最新情報については、サーバーのドキュメントライブラリ <http://www.oracle.com/goto/x4-2/docs> で入手できます。

このドキュメントには次の情報があります。

説明	リンク
サポートされるハードウェアを確認します。	9 ページの「サポートされるハードウェア」
サポートされるファームウェアのリビジョンを確認します。	10 ページの「サポートされるファームウェアのバージョン」
サポートされるオペレーティングシステムを確認します。	10 ページの「サポートされているオペレーティングシステム」
操作に関する重要な注意点を確認します。	12 ページの「操作に関する重要な注意点」
サポートされる Oracle サーバー管理ツールを確認します。	23 ページの「サーバー管理ツール」
サポートされる PCIe カードを確認します。	24 ページの「サポートされる PCIe カード」
解決済みの問題を確認します。	26 ページの「解決済みの問題」
未解決の問題を確認します。	33 ページの「未解決の問題」

サポートされるハードウェア

サポートされるハードウェアに関する詳細な情報については、次の Sun Server X4-2 ドキュメントを参照してください。

- 『Sun Server X4-2 設置ガイド』の「サーバーの機能とコンポーネント」
- 『Sun Server X4-2 サービスマニュアル』の「Sun Server X4-2 について」

これらのドキュメント内で、次のコンポーネントおよびその他のコンポーネントに関するサポートされるハードウェアの情報を入手できます。

- プロセッサ
- メモリー
- ストレージドライブ
- ホストバスアダプタ

関連情報

- [24 ページの「サポートされる PCIe カード」](#)

サポートされるファームウェアのバージョン

サーバーファームウェアのバージョンは、未解決の問題を修正するために必要に応じて更新されるため、サポートされるファームウェアのバージョンは時間とともに変わります。

サポートされるファームウェアバージョンに関する最新情報については、Oracle System Assistant の ReadMe ファイルを参照してください。ReadMe ファイルにアクセスするには、「Oracle System Assistant System Overview」ページで「Help」ボタンをクリックしてから、「Release Notes」をクリックします。ReadMe ファイルに最新のファームウェアバージョンの情報が確実に含まれるようにするには、サーバーに使用可能な最新のソフトウェアリリースで Oracle System Assistant を更新します。

ReadMe ファイルは、My Oracle Support Web サイトから最上位の ReadMe としてもアクセスできます (My Oracle Support からダウンロードする任意のサーバーソフトウェアパッケージに含まれています)。ダウンロード手順については、『Sun Server X4-2 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

My Oracle Support にアクセスするには、<https://support.oracle.com> に移動します

関連情報

- [13 ページの「重要 – 最新の OS 更新、パッチ、ファームウェアをインストールする」](#)

サポートされているオペレーティングシステム

次のハードウェア互換性リスト (HCL) には、Oracle ハードウェアでサポートされている最新のオペレーティングシステムのバージョンが示されています。Oracle Server X4-2 でサポートされる最新のオペレーティングシステムのバージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスし、サーバーのモデル番号を使用して検索してください。

- Oracle Solaris — <http://www.oracle.com/webfolder/technetwork/hcl/index.html>
- Oracle Linux — <http://linux.oracle.com/pls/apex/f?p=117:1:3991604960223967>
- Oracle VM — <http://linux.oracle.com/pls/apex/f?p=117:1:3991604960223967>
- Windows — <https://www.windowsservercatalog.com/>
- VMware ESXi — <http://www.vmware.com/resources/compatibility/search.php>
- Red Hat Enterprise Linux — <https://access.redhat.com/ecosystem>
- SUSE Linux Enterprise Server — <https://www.suse.com/yessearch/Search.jsp>

次の表に、サポートされているオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアの一覧を示します。サポートされるオペレーティングシステムおよびソフトウェアは、リリースごとに蓄積されます。つまり、新しいソフトウェアリリースには以前のソフトウェアリリースのすべてのコンポーネントが含まれます。

プラットフォームソフトウェアリリース	サポートされているオペレーティングシステム
1.3.1	サポートされているオペレーティングシステムまたは仮想マシンソフトウェアに変更はありません。
1.3	サポートされているオペレーティングシステムまたは仮想マシンソフトウェアに変更はありません。
1.2	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 1/13 ■ Oracle Solaris 11.1 および 11.2 ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux を含む Oracle Linux 6.3 for x86 (64 ビット) ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux カーネルまたは Red Hat 互換カーネルを備えた x86 (64 ビット) 向け Oracle Linux 5.9、5.10、および 6.4 ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux カーネルまたは Red Hat 互換カーネルを備えた x86 (64 ビット) 向け Oracle Linux 6.5 および 7.0 ■ Oracle VM 3.2 および 3.3 ■ Red Hat Enterprise Linux 5.9、5.10、6.4、6.5、および 7.0 for x86 (64 ビット) ■ SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 および SP3 (64 ビット) ■ VMware ESXi 5.0 Update 2 および Update 3、5.1 Update 1 および Update 2、5.5、および 5.5 Update 1 ■ Windows Server 2008 SP2 ■ Windows Server 2008 R2 SP1 ■ Windows Server 2012 ■ Windows Server 2012 R2
1.1	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 1/13 ■ Oracle Solaris 11.1 ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux を含む Oracle Linux 6.3 for x86 (64 ビット) ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux カーネルまたは Red Hat 互換カーネルを備えた x86 (64 ビット) 向け Oracle Linux 5.9、5.10、および 6.4 ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux カーネルまたは Red Hat 互換カーネルを備えた x86 (64 ビット) 向け Oracle Linux 6.5 ■ Oracle VM 3.2 ■ Red Hat Enterprise Linux 5.9、5.10、6.4、および 6.5 for x86 (64 ビット) ■ SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 および SP3 (64 ビット) ■ VMware ESXi 5.0 Update 2 および Update 3、5.1 Update 1、および 5.5 ■ Windows Server 2008 SP2 ■ Windows Server 2008 R2 SP1 ■ Windows Server 2012 ■ Windows Server 2012 R2
1.0.1	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 1/13 ■ Oracle Solaris 11.1 ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux を含む Oracle Linux 6.3 for x86 (64 ビット)

プラットフォームソフトウェアリリース	サポートされているオペレーティングシステム
	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux カーネルまたは Red Hat 互換カーネルを備えた x86 (64 ビット) 向け Oracle Linux 5.9 および 6.4 ■ Oracle VM 3.2 ■ Red Hat Enterprise Linux 5.9 および 6.4 for x86 (64 ビット) ■ SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 および SP3 (64 ビット) ■ VMware ESXi 5.0 Update 2 および 5.1 Update 1 ■ Windows Server 2008 SP2 ■ Windows Server 2008 R2 SP1 ■ Windows Server 2012
1.0	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Solaris 10 1/13 ■ Oracle Solaris 11.1 ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux を含む Oracle Linux 6.3 for x86 (64 ビット) ■ Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux カーネルまたは Red Hat 互換カーネルを備えた x86 (64 ビット) 向け Oracle Linux 5.9 および 6.4 ■ Oracle VM 3.2 ■ Red Hat Enterprise Linux 5.9 および 6.4 for x86 (64 ビット) ■ SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 (64 ビット) ■ VMware ESXi 5.0 Update 2 および 5.1 Update 1 ■ Windows Server 2008 SP2 ■ Windows Server 2008 R2 SP1 ■ Windows Server 2012

関連情報

- [17 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 では、BIOS 設定ユーティリティの「IO」メニューで「PCI Subsystem Settings」オプションを有効にすることはサポートされない](#)
- [19 ページの「インストール済みの Oracle VM Server と Oracle VM Manager の互換性要件」](#)

操作に関する重要な注意点

このセクションでは、Sun Server X4-2 の操作に関する重要な情報および要件について説明します。

- [13 ページの「重要 – 最新の OS 更新、パッチ、ファームウェアをインストールする」](#)
- [14 ページの「OS またはソフトウェアアプリケーションのダウンロード」](#)
- [15 ページの「リセットに長い時間がかかり、サーバーの電源が切れて再投入される」](#)
- [15 ページの「Oracle ILOM で使用できる高度な IP 接続設定」](#)
- [19 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ」](#)

- 17 ページの「シングルプロセッサからデュアルプロセッサへのアップグレードはサポートされない」
- 17 ページの「システムの最新ソフトウェアリリースへの更新」
- 18 ページの「組み込み Oracle System Assistant USB フラッシュドライブの上書き回避」
- 19 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ」
- 19 ページの「インストール済みの Oracle VM Server と Oracle VM Manager の互換性要件」
- 19 ページの「HBA ファームウェア更新による UEFI BIOS のサポート」
- 20 ページの「64 ビット Linux オペレーティングシステムが稼働しているサーバーで segfault が発生する可能性がある」
- 20 ページの「ファンモジュールの取り外しと交換を 20 秒以内で行う」
- 21 ページの「1 台のサーバーファンモジュールの障害によるパフォーマンス低下」
- 21 ページの「スタンバイ過熱防止」
- 21 ページの「Ethernet ポートへの MAC アドレスマッピング」
- 22 ページの「バッテリーモジュール」
- 22 ページの「UEFI BIOS 構成の動作の変更」

関連情報

- 33 ページの「未解決の問題」

▼ 重要 – 最新の OS 更新、パッチ、ファームウェアをインストールする

システムソフトウェアリリース 1.3.1 はシステムファームウェアバージョン 3.2.4.46.a に関連付けられています。新しいシステムファームウェアバージョンは、大きい番号が使用されるか、または文字が追加されます。たとえば、3.2.4.47 は 3.2.4.46.a よりもあとのバージョンです。

一部の製品機能は、パッチおよびファームウェアの最新バージョンがインストールされているときにのみ有効になります。最適なシステムパフォーマンス、セキュリティ、および安定性を確保するには、最新のオペレーティングシステム (OS) の更新、パッチ、およびファームウェアバージョンをインストールする必要があります。詳細は、『Sun Server X4-2 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

システムにインストールされているファームウェアバージョンを確認するには:

1. Sun Server X4-2 プロダクトノート (このドキュメント) を確認します。

このドキュメントでは、重要な製品の依存関係および最新情報について説明します。10 ページの「サポートされるファームウェアのバージョン」を参照してください。

2. **Oracle ILOM を使用してシステムファームウェアバージョンを確認します。**

システムファームウェアを確認するには、Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェース (CLI) を使用できます。

- Web インタフェースの場合、「System Information」->「Summary」をクリックし、「General Information」表の「System Firmware Version」のプロパティ値を表示します。
- CLI の場合、コマンドプロンプト (>) で `show /system` と入力します
- ファームウェアのバージョンが、上記の最小限必要なバージョンか、使用可能な場合はその後続リリースであることを確認します。

3. 必要に応じて、次の **My Oracle Support** から入手可能な最新のソフトウェアリリースバージョンをダウンロードします。

<https://support.oracle.com>

ソフトウェアリリースは、サーバーで使用できる最新のファームウェア、ソフトウェア、ハードウェアドライバ、ツール、およびユーティリティを含む、ダウンロード可能なファイル (パッチ) のセットです。

4. 必要に応じて、サーバーのファームウェアを更新します。

Oracle Hardware Management Pack 内の `fwupdate` CLI ツールを使用すると、システム内部のファームウェアを更新できます。詳細は、次の Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/ohmp/docs>

OS またはソフトウェアアプリケーションのダウンロード

ライセンスされたすべての Oracle 製品のオペレーティングシステム (OS) またはソフトウェアアプリケーションを、Oracle Software Delivery Cloud (以前は Oracle eDelivery と呼ばれていました) からダウンロードできます。ソフトウェアは、zip および ISO 形式で使用でき、これをそれぞれ解凍するか、または DVD に書き込むことができます。Oracle Technology Network (OTN) 上のすべてのダウンロードリンクは Software Delivery Cloud を指していて、このサイトをすべての Oracle ダウンロードの信頼できるソースにしています。60 ページの「物理メディアのリクエストがサポートされなくなった」も参照してください。Oracle Software Delivery Cloud にアクセスするには、<https://edelivery.oracle.com> を参照してください

リセットに長い時間がかかり、サーバーの電源が切れて再投入される

保留中の BIOS アップグレードがある場合、ルーチンのリセットが予期したより長くなり、サーバーの電源を切ってリポートする動作が複数回行われます。BIOS ファームウェアをアップグレードするためにはサーバーの電源を切って再投入することが必要であり、これは予期された動作です。アップグレードに FPGA 更新が含まれている場合は、完了するまでに 26 分かかることがあります。

次の条件の両方が当てはまる場合には、保留中の BIOS アップグレードが存在します。

- Oracle ILOM を使用して BIOS およびサービスプロセッサのファームウェアを更新します。
- BIOS アップグレードを延期するオプションを選択します。



注意 - データの破損とシステムの停止時間。ファームウェアのアップグレードプロセスを中断すると、ファームウェアが壊れて、サーバーが操作不可能になることがあります。アップグレードを中断しないでください。プロセスが終了するまで待ってください。

詳細については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』の「BIOS およびサービスプロセッサのファームウェアを更新する (Oracle ILOM)」を参照してください。

Oracle ILOM で使用できる高度な IP 接続設定

ソフトウェアリリース 1.3.1 では、Oracle ILOM は、IPv4 および IPv6 ネットワーク接続の状態プロパティを個別に有効または無効にする機能をサポートしています。さらに、新しい静的 IPv6 ゲートウェイのプロパティを構成に使用できます。

▼ Oracle ILOM で高度な IP 接続設定にアクセスする

Oracle ILOM でこれらの高度なネットワーク設定にアクセスするには、次の手順を参照してください。

1. **Oracle ILOM に管理者としてログインします。**
Oracle ILOM を CLI または Web インタフェースから起動する方法の手順については、Sun Server X4-2 の『設置ガイド』を参照してください。
2. **SP のネットワーク設定を変更するには、次のいずれかを実行します。**
 - **Web インタフェースから、これらの手順を実行します。**
 - a. 「ILOM Administration」->「Connectivity」->「Network」をクリックします。

- b. 必要に応じて「**Network Settings**」ページの設定を変更します。
「Network Setting」ページでプロパティを構成する方法の詳細については、*More Details* リンクをクリックしてください。
- c. 「**Save**」をクリックして **Oracle ILOM** でのネットワークプロパティの変更を保存します。

注記 - IP ネットワークプロパティの変更を保存すると、SP 上のすべてのユーザーセッションが終了します。Oracle ILOM にログインし直すには、新しく割り当てられたサービスプロセッサの IP アドレスを使用します。

■ **CLI インタフェースから、これらの手順を実行します。**

- a. **SP** に割り当てられている **IPv4** および **IPv6** ネットワーク設定を表示するには、次の手順を実行します。
IPv4 の場合、`show /SP/network` と入力します
IPv6 の場合、`show /SP/network/ipv6` と入力します
- b. **IPv4** および **IPv6** の各ネットワークプロパティの説明を表示するには、次の手順を実行します。
IPv4 の場合、`help /SP/network` と入力します
IPv6 の場合、`help /SP/network/ipv6` と入力します
- c. **SP** 上の **IPv4** および **IPv6** ネットワークプロパティを変更するには、`set` コマンドを発行します。

IPv4 の例:

```
set /SP/network state=enabled|disabled pendingipdiscovery=static|dhcp
pendingipaddress=value pendingipgateway=value pendingipnetmask=value
```

IPv6 の例:

```
set /SP/network/ipv6 state=enabled|disabled pending_staticipaddress= value|subnet_mask_value
pending_static_ipgatewayaddress=value
```

注記 - 二重スタックネットワーク接続は、IPv4 と IPv6 両方の状態プロパティが有効に設定されている場合に有効になります。デフォルトでは、サーバーに付属する Oracle ILOM 構成では、デュアルスタック (IPv4 および IPv6) ネットワーク接続が有効になったネットワーク設定になっています。IPv4 の状態プロパティが有効 (`/SP/network state=enabled`) で、IPv6 の状態プロパティが無効 (`/sp/network/ipv6 state=disabled`) になっている場合、Oracle ILOM は IPv4 専用のネットワーク接続をサポートします。

- d. Oracle ILOM で保留中の IPv4 および IPv6 のネットワーク変更を確定するには、次のように入力します。

```
set /SP/network commitpending=true
```

注記 - IP ネットワークプロパティの変更を確定すると、SP 上のすべてのユーザーセッションが終了します。Oracle ILOM にログインし直すには、新しく割り当てられたサービスプロセッサの IP アドレスを使用します。

Oracle Solaris 10 1/13 では、BIOS 設定ユーティリティーの「IO」メニューで「PCI Subsystem Settings」オプションを有効にすることはサポートされない

BIOS 設定ユーティリティーの「IO」メニューの「PCI Subsystem Settings」の「64-bit PCIe MMIO」オプションは、デフォルトで有効になっています。サーバーに Oracle Solaris 10 1/13 をインストールする場合、インストール前にこのオプションを無効にする必要があります。そうしないと、一部の PCIe カードは正しく動作しません。

シングルプロセッサからデュアルプロセッサへのアップグレードはサポートされない

Sun Server X4-2 では、Oracle はシングルプロセッサからデュアルプロセッサへのアップグレードをサポートしていません。このサーバーでは、Oracle はシングルプロセッサからデュアルプロセッサへのアップグレードキットを提供していません。

システムの最新ソフトウェアリリースへの更新

システムを使用する前に、システムを最新のソフトウェアリリースに更新することを強くお勧めします。ソフトウェアリリースにはしばしばバグの修正が含まれるため、更新により、サーバーソフトウェアと、最新のサーバーファームウェアおよびほかのコンポーネントのファームウェアとソフトウェアとの互換性が保証されます。

Oracle System Assistant で更新の取得タスクを実行すると、利用可能な最新のシステム BIOS、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)、ファームウェア、およびドライバを Oracle から入手できます。インターネット接続が必要です。「Get Updates」タスクの使用方法に関する手順については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)を参照してください。

My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) から、最新のファームウェアおよびソフトウェアの更新をダウンロードすることもできます。My Oracle Support からのファームウェアおよびソフトウェアのダウンロードについては、『Sun Server X4-2 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

組み込み Oracle System Assistant USB フラッシュドライブの上書き回避

Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを含む Sun Server X4-2 システム (目的は Linux オペレーティングシステムまたは仮想マシンソフトウェアのインストール) は、ハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が 1 台だけの場合でも、マルチストレージドライブシステムです。Oracle System Assistant USB フラッシュドライブは、インストーラには通常のディスクのように見えます。

オペレーティングシステム (OS) のインストール中に、ディスクパーティションに使用されるデバイスをよく確認せずに、インストーラによって示されるデフォルトのディスクレイアウトを受け入れないでください。デバイスの選択を確認したり修正したりせずに OS インストーラによって提示されたデフォルトのディスクパーティションを受け入れると、Oracle System Assistant USB フラッシュドライブが上書きされ、その他のシステムソフトウェアの問題が発生する可能性があります。

これは、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) モードでの Oracle Linux 6.x および 7 または Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.x および 7 ベースのインストールで発生する可能性が高くなります。インストーラが、USB フラッシュドライブを有効な EFI システムパーティション (ESP ブートパーティション) として認識し、Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを使用して、多くのデフォルトのディスク構成で OS をブートしようとするためです。必ず、ディスクレイアウトを確認できるディスクパーティション分割オプションを選択してください。

- カスタムレイアウトの作成またはデフォルトレイアウトの変更に関する詳細は、https://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_Enterprise_Linux/6/html/Installation_Guide/s1-diskpartitioning-x86.html を参照してください
- ディスクパーティション分割設定の詳細は、https://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_Enterprise_Linux/6/html/Installation_Guide/s1-diskpartsetup-x86.html を参照してください

詳細については、ソフトウェアインストールガイドの次のセクションを参照してください。

- Linux オペレーティングシステムについては、『Sun Server X4-2 Linux オペレーティングシステムインストールガイド』の「インストール先のオプション」を参照してください。
- Oracle VM については、『Sun Server X4-2 Oracle VM インストールガイド』の「インストール先のオプション」を参照してください。
- VMware ESXi については、『Sun Server X4-2 VMware ESXi インストールガイド』の「インストール先のオプション」を参照してください。

Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ

Oracle Solaris 10 1/13 をサーバーにインストールしたあとで、次の表に示されているパッチをインストールしてください。

表 1 Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ

必須パッチ	修正済み CR	説明
150179-01	15755801、 15807688	このパッチは、Intel Xeon E5-2600 V2 シリーズプロセッサのサポートを提供します。
150385-01	15786384	このパッチは、hcts conn5_net テスト実行時のシステムハングアップの問題を修正します。
148678-01	16384609	このパッチは、Oracle Solaris オペレーティングシステムブート時のカーネルパニックの問題を修正します。

インストール済みの Oracle VM Server と Oracle VM Manager の互換性要件

システムにインストール済みの Oracle VM Server ソフトウェアを使用する場合は、Oracle VM インフラストラクチャーの管理に使用する Oracle VM Manager のバージョンと互換性があることを確認する必要があります。互換性を確保する必要がある場合は、使用している Oracle VM Server または Oracle VM Manager をアップグレードして、両者のバージョンを一致させてください。

Oracle VM ソフトウェアのアップグレードについては、『Oracle VM インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。Oracle VM のドキュメントは次の Web サイトで入手できます。<http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html>

HBA ファームウェア更新による UEFI BIOS のサポート

システムと一緒に出荷されないホストバスアダプタ (HBA) カードを使用する場合、UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) BIOS がサポートされるように HBA カードのファームウェアを更新しなければいけない可能性があります。更新しなければいけない可能性のある HBA カードは、次のとおりです。

- Sun Storage 6G ビット SAS PCIe HBA 内蔵 (SGX-SAS6-INT-Z)
- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA 外部 (SGX-SAS6-EXT-Z)
- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA 内蔵 (SGX-SAS6-R-INT-Z)
- StorageTek 8 Gb ファイバチャネル PCIe HBA デュアルポート QLogic (SG-XPCIE2FC-QF8-N)

- StorageTek 8 Gb ファイバチャネル PCIe HBA デュアルポート Emulex (SG-XPCIE2FC-EM8-N)

したがって、次のいずれかの文が真の場合、HBA ファームウェアを更新しなければいけない可能性があります。

- 障害のある HBA カードの交換用カードを受け取ります。
- システムとは別個に HBA カードを注文します。
- すでに所有している HBA カードを使用します。

Oracle System Assistant または Oracle Hardware Management Pack を使用して HBA ファームウェアを更新できます。Oracle System Assistant を使って HBA のファームウェアを更新する方法については、*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) の、ファームウェアの更新に関する手順を参照してください。

注記 - また、Legacy BIOS を使用するようにシステムを構成することもできます。詳細については、*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) の、レガシー BIOS ブートモードと UEFI BIOS ブートモードの選択に関する手順を参照してください。

64 ビット Linux オペレーティングシステムが稼働しているサーバーで segfault が発生する場合がある

Advanced Vector Extensions (AVX) プロセッサがサポートされ、64 ビット Linux オペレーティングシステムが稼働しているサーバーでは、Oracle Database やその他の Oracle Middleware 製品などのアプリケーションのロード時に、セグメンテーション違反 (segfault) が発生する可能性があります。

これらの予測不能な segfault を回避するには、システム上の glibc パッケージがバージョン glibc-2.12-1.47.0.2.el6_2.12.x86_64 以降であることを確認するようにしてください。

更新済みの glibc パッケージは Oracle Public Yum リポジトリから取得できます。

ファンモジュールの取り外しと交換を 20 秒以内で行う

サーバーのファンモジュールを取り外して交換する場合は、システム内の適切な冷却を維持するために、取り外しと交換の手順全体を 20 秒以内に完了する必要があります。この制限時間を見越して、交換手順を開始する前に交換用のファンモジュールを用意し、新しいファンモジュールを取り付ける準備ができていることを確認します。

ファンモジュールはホットスワップ可能なコンポーネントで、N+1 ファン冗長性があります。Sun Server X4-2 40mm ファンモジュールは、2 枚の完全な逆回転ファンペア (計 4 ロータ) を備え

ていて、シャーシが 4 つのファンモジュールを保持します。Sun Server X4-2L ファンモジュールは、単一の 80mm 逆回転ファンペア (計 2 ロータ) を使用し、シャーシが 4 つのファンモジュールを保持します。ファンモジュール内の 1 台のファンのみに障害が発生している場合でも、交換のためにファンモジュールを取り外している間は、Oracle ILOM サービスプロセッサでは、4 つのファン (Sun Server X4-2) または 2 つのファン (Sun Server X4-2L) が回転できないものとして検出されます。ファンモジュールの交換にかかる時間が 20 秒を超えた場合、Oracle ILOM は熱によるシステムの損傷を防ぐために、システムを自動的にシャットダウンします。これは、正常な動作です。

1 台のサーバーファンモジュールの障害によるパフォーマンス低下

1 台のサーバーファンモジュールに障害が発生し、サーバーの動作温度が 30 °C (86 °F) を超過した場合、サーバーのプロセッサのパフォーマンスが低下する可能性があります。

スタンバイ過熱防止

スタンバイ過熱防止により、ラックに取り付けられているシステム内の電源ユニット (PSU) とマザーボードが高温から保護されます。システムがスタンバイ電源モードになっているとき、システムファンと電源ファンの両方は稼働していません。まれに、これが原因で電源とマザーボードの温度センサーが温度しきい値を超えて、過熱状態についてユーザーが警告されることがあります。

スタンバイ電源モードになっているシステムで過熱状態が発生すると、スタンバイ過熱防止機能によりホストの電源が 25 秒間投入され、システムファンが回転してシステム PSU とマザーボードを冷却します。電源の再投入が完了するまで、この 25 秒間にサービスプロセッサ (SP) ではユーザーによるサーバーホストの電源リクエストは許可されません。スタンバイ過熱防止イベント中、システムがブートを試行しないように BIOS が停止されます。VGA 接続にシステムアクティビティは表示されません。

スタンバイ過熱防止がアクティブ化されているときに、Oracle ILOM は、温度しきい値を超えたために「スタンバイ過熱防止」がアクティブ化されたことを SP イベントログに記録します。

Ethernet ポートへの MAC アドレスマッピング

サーバーの MAC ID (および関連するバーコード) が表示されているシステムシリアルラベルは、Sun Server X4-2 サーバーディスクケースベゼルの上部の左側正面にあります。

この MAC ID (およびバーコード) は、一連の 6 つの連続する MAC アドレスの 16 進 (基数 16) MAC アドレスに対応します。次の表に示すように、これらの 6 つの MAC アドレスはサーバーのネットワークポートに対応します。

ベース MAC アドレス	対応する Ethernet ポート
「ベース」+ 0	NET 0
「ベース」+ 1	NET 1
「ベース」+ 2	NET 2
「ベース」+ 3	NET 3
「ベース」+ 4	SP (NET MGT)
「ベース」+ 5	Network Controller-Sideband Interface (NC-SI) サイドバンド管理が構成されている場合のみ使用されます。

バッテリーモジュール

Oracle Engineered Systems では、ストレージドライブ 7 にホストバスアダプタ (HBA) カード用のリモートバッテリーモジュールが装着されている場合があります。



注意 - バッテリーモジュールは顧客交換可能ユニット (CRU) ではなく、顧客が取り外したり交換したりすることはできません。バッテリーモジュールの取り外しや交換を行えるのは、Oracle 保守担当者だけです。

バッテリーモジュールはホットプラグ対応で、Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵ホストバスアダプタ (HBA) である SG-SAS6-R-INT-Z のバックアップ電源サブシステムを提供します。これにより、Oracle 保守担当者は、サーバーの電源を切断しなくても製品寿命の終了時にバッテリーを交換できます。

UEFI BIOS 構成の動作の変更

注記 - サーバープラットフォームソフトウェアの拡張: プラットフォームソフトウェアリリース 1.2 の時点で、「UEFI Configuration Synchronization」オプションは BIOS の「Advanced」メニューから削除されています。そのため、ユーザーは、Oracle ILOM が UEFI 構成を同期するポイントを制御できなくなりました。UEFI 構成の同期はサーバープラットフォームソフトウェアで処理されるようになったため、ユーザーのアクションは必要なくなりました。

BIOS と Oracle ILOM の間で UEFI 構成を同期させるプロセスが変更され、ユーザーが後期 UEFI 構成同期 (Synchronization Late) を有効化できるようになりました。Synchronization Late を有効にすると、Oracle ILOM は BIOS 構成の同期を、BIOS がホスト OS に制御を渡す直前か、BIOS 設定ユーティリティからの保存および終了後に試みることができます。

Synchronization Late を有効化または無効化する方法は 2 つあります。

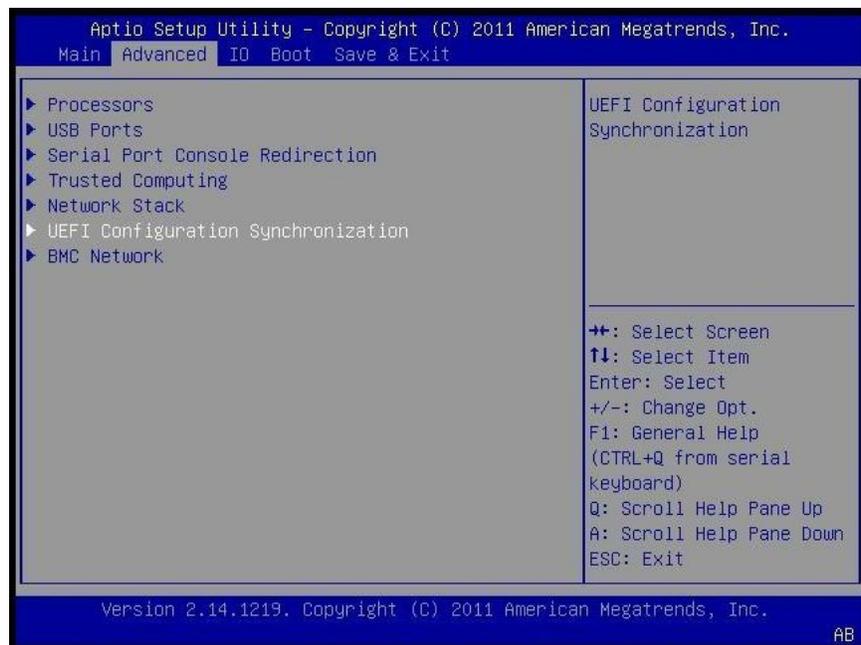
- UEFI Config XML ファイル内で新しいノーマルモードの BIOS 設定パラメータを使用します。このパラメータは次の情報を提供します。

```

<UEFI_Configuration_Synchronization>
<!--Synchronization_Late-->
<!--Description: If enabled, Synchronization will occur at the end of post.-->
<!--Possible Values: "Disabled", "Enabled"-->
<Synchronization_Late>Enabled</Synchronization_Late>

```

- Oracle ILOM リモートコンソールにログインするかシステムにモニターを直接接続することで、BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。BIOS 設定ユーティリティで「Advanced」タブをクリックし、下方にスクロールして「UEFI Configuration Synchronization」に移動します。Enter キーを押して「UEFI Configuration Synchronization」メニューを開きます。



Synchronization Late はデフォルトで有効化されています。Enter キーを押して Synchronization Late を有効化または無効化します。保存して BIOS 設定ユーティリティを終了します。

サーバー管理ツール

サーバー向けに単一のサーバー管理ツールが 3 セット存在します。

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM): 詳細は、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> で Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリを参照してください。

- Oracle System Assistant: 詳細は、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) で Oracle System Assistant を使用してサーバーを設定する手順を参照してください。
- Oracle Hardware Management Pack: 詳細は、<http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。

さらに、データセンターで複数のシステムを管理するために、次のソフトウェアを使用できます。

- Oracle Enterprise Manager Ops Center: 詳細は、<http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html> で製品情報のページを参照してください。

サポートされる PCIe カード

このセクションでは、Sun Server X4-2 でサポートされる PCIe カードについて説明します。

次の表に、Sun Server X4-2 でサポートされる PCIe カードの数量およびスロットの制限を示します。「サポートされる最大数量」列は、Oracle がテスト済みでサポートしているカード数を示します。

注記 - PCIe スロット 1 は、シングルプロセッサシステムでは機能しません。デュアルプロセッサシステムのスロット 1 でサポートされる PCIe カードは、シングルプロセッサシステムのスロット 2 と 3 のみでサポートされます。

表 2 サポートされる PCIe カード、サポートされる数量、およびスロットの制限

PCIe カード	サーバーでサポートされる最大数量	スロットの制限
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (内蔵) SGX-SAS6-INT-Z (注文可能なオプション) SG-SAS6-INT-Z (出荷時の取り付け用)	1	スロット 4 でサポートされます。
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (外付け) SGX-SAS6-EXT-Z (欧州連合加盟国以外の国で注文可能なオプション) 7105387 (欧州連合加盟国で注文可能なオプション) SG-SAS6-EXT-Z (出荷時の取り付け用)	2	スロット 1、2、3 でサポートされます。
Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA (内蔵) SGX-SAS6-R-INT-Z (注文可能なオプション) SG-SAS6-R-INT-Z (出荷時の取り付け用)	1	スロット 4 でサポートされます。
StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート QLogic SG-PCIE2FC-QF8-N (注文可能なオプション)	3	スロット 1、2、3 でサポートされます。

PCIe カード	サーバーでサポートされる最大数量	スロットの制限
SG-PCIE2FC-QF8-Z (出荷時の取り付け用)		
StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート Emulex	3	スロット 1、2、3 でサポートされま す。
SG-XPCIE2FC-EM8-N (注文可能なオプション)		
SG-PCIE2FC-EM8-Z (出荷時の取り付け用)		
Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバー サル HBA、QLogic	3	スロット 1、2、3 でサポートされま す。
7101674 (注文可能なオプション)		
7101673 (出荷時の取り付け用)		
Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバー サル HBA、Emulex	3	スロット 1、2、3 でサポートされま す。
7101684 (注文可能なオプション)		
7101683 (出荷時の取り付け用)		
Sun Storage 16 Gb FC Short Wave Optics、QLogic	3	スロット 1、2、3 でサポートされま す。
7101676 (注文可能なオプション)		
7101675 (出荷時の取り付け用)		
注記 - この PCIe カードは Oracle VM 3.3 でサポートされて いますが、このカードは Oracle VM 3.2 ではサポートされませ ん。		
Sun Storage 16 Gb FC Long Wave Optics、QLogic	3	スロット 1、2、3 でサポートされま す。
7101680		
注記 - この PCIe カードは Oracle VM 3.3 でサポートされて いますが、このカードは Oracle VM 3.2 ではサポートされませ ん。		
Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics、QLogic	3	スロット 1、2、3 でサポートされま す。
7101678 (注文可能なオプション)		
7101677 (出荷時の取り付け用)		
注記 - この PCIe カードは Oracle VM 3.3 でサポートされて いますが、このカードは Oracle VM 3.2 ではサポートされませ ん。		
Sun Storage 16 Gb FC Short Wave Optics、Emulex	3	スロット 1、2、3 でサポートされま す。
7101686 (注文可能なオプション)		
7101685 (出荷時の取り付け用)		
Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics、Emulex	3	スロット 1、2、3 でサポートされま す。
7101688 (注文可能なオプション)		
7101687 (出荷時の取り付け用)		
Sun デュアルポート QDR InfiniBand ホストチャネルアダプタ (PCIExpress Gen 3 用)	2	スロット 1、2、3 でサポートされま す。

PCIe カード	サーバーでサポートされる最大数量	スロットの制限
7104074 (注文可能なオプション)		
7104073 (出荷時の組み込み用) 注記 - この PCIe カードは Oracle VM 3.3 でサポートされています。Oracle VM 3.2、Windows Server、VMware ESXi、および SUSE Linux Enterprise Server は、Oracle Virtual Network でのみサポートされています。		
Sun Dual Port GbE PCIe 2.0 Low Profile アダプタ、MMF	2	スロット 1、2、3 でサポートされません。
7100481 (注文可能なオプション)		
7100482 (出荷時の取り付け用)		
Sun クアッドポート GbE PCIe 2.0 Low Profile アダプタ、UTP	2	スロット 1、2、3 でサポートされません。
7100477 (注文可能なオプション)		
7100479 (出荷時の取り付け用)		
Sun Dual Port 10 GbE PCIe 2.0 Low Profile アダプタ、Base-T	2	スロット 1、2、3 でサポートされません。
7100488 (注文可能なオプション)		
7100563 (出荷時の取り付け用)		
Sun Dual 10 GbE SFP+ PCIe 2.0 Low Profile アダプタ (Intel 82599 10 ギガビット Ethernet コントローラを内蔵し、プラグイン可能な SFP+ トランシーバおよび ROHS 5 をサポート)	2	スロット 1、2、3 でサポートされません。
X1109A-Z (注文可能なオプション)		
1109A-Z (出荷時の取り付け用)		

解決済みの問題

サーバーに関する最新情報については、サーバーのドキュメントライブラリ <http://www.oracle.com/goto/X4-2/docs> で入手できます。

このセクションでは、解決済みの問題の一覧と説明を示します。

前のプラットフォームソフトウェアリリースの解決済みの問題

注記 - 該当する場合、次の解決済みの問題の表には、解決済みの問題がバグ ID 番号 (現在の Oracle BugDB バグ追跡システムによって割り当てられた識別番号) と変更リクエスト番号 (前のバグ追跡システムによって割り当てられた識別番号) 別に一覧表示されています。バグ ID 番号と CR 番号のいずれかの番号を使用すると、BugDB で問題にアクセスできます。

問題は、BugDB 変更リクエスト (CR) 番号によって一覧表示されます。

Oracle Solaris 10 1/13 オペレーティングシステムで Oracle ILOM リモートコンソールを使用すると、システムがハングアップ状態となり、キーボード入力を受け入れなくなる

16353003

問題:

Oracle Solaris 10 1/13 OS で Oracle ILOM リモートコンソールを使用すると、システムがシャットダウンの最終段階でハングアップ状態になります。「Press any key to reboot」というプロンプトがリモートコンソールに表示されますが、コンソールはそのメッセージへの応答となるキーボード入力を一切受け入れません。この問題が発生する可能性があるのは、リモートコンソールの eeprom 変数 `console` が `text` に設定された状態で次のシステム管理コマンドを入力した場合です。

- `sys-unconfig`
- `init 0`
- `uadmin 1 0`
- `uadmin 1 6`
- `uadmin 2 0`
- `shutdown -i 0`
- `halt`

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Solaris 10 1/13
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、および 1.1。

修正済みの版:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2

注記 - この問題の修正は、Oracle Solaris 10 1/13 のパッチ 150401-12、および Oracle Solaris 11.1 (SRU19.6 以降) で入手できます。Oracle Solaris のパッチをダウンロードするには、My Oracle Support の Web サイト (<https://support.oracle.com>) にアクセスしてください。

Oracle System Assistant 回復 ISO ファイルの使用時に、サポートされていないハードウェアデバイスに関するエラーが表示される

16590407

問題:

Oracle System Assistant 回復 ISO ファイルのソフトウェアバージョン 1.0 を使用したときに、「UNSUPPORTED HARDWARE DEVICE: CPU family 6 model > 59」というメッセージが表示されます。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、および 1.1

修正済みの版:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2

Microsoft Windows Server で仮想 Ethernet デバイスが「インストールされていません」と報告される

15765750、17971455 (以前の CR 7129124)

問題:

Windows オペレーティングシステムのインストール時に Oracle Hardware Management Pack をインストールしなかった場合、仮想 Ethernet デバイスがインストールされていないことがデバイスマネージャーによって報告されます。

影響を受けるソフトウェア:

- Windows Server 2008 SP2
- Windows Server 2008 R2 SP1
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、および 1.1

修正済みの版:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2

InfiniBand PCIe カードを Oracle UEK2 で使用する 場合、BIOS オプション VT-d と SR-IOV が有効化さ れていて、かつカーネルブート引数 `intel_iommu` が `on` に設定されていると、IPoIB のスループットが低下す る

17168826

問題:

PCIExpress Gen 3 PCIe カード用 Sun デュアルポート QDR InfiniBand ホストチャンネルアダプタ (7104074) を Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 (UEK2) for Linux で使用する
場合、BIOS オプション VT-d と SR-IOV が有効化されていて (デフォルト設定)、かつカーネル
ブート引数 `intel_iommu` が `on` に設定されていると、IPoIB (IP-over-InfiniBand) のスループット
が低下します。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- PCIExpress Gen 3 PCIe カード用 Sun デュアルポート QDR InfiniBand ホストチャンネルアダプタ (7104074)
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、および 1.1

修正済みの版:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.4 で Oracle Server Hardware Management Agent が正常に起動 されない

16975947

問題:

RHEL 6.4 で、Oracle Hardware Management Pack のインストール後に Oracle Server Hardware Management Agent (`hwmgmt`) が正常に起動されません。サービスが正常に起動せず、ユーザーが Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) を使用して適切なシステム情報を取得できません。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Hardware Management Pack 2.2

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0 および 1.0.1

修正済みの版:

- Oracle Hardware Management Pack 2.2.8

サーバーの初回リリース時に顧客が 32G バイトの LRDIMM を注文することはできません

問題:

顧客は、サーバーの初回リリースのあとでしか 32G バイトのメモリーモジュール (LRDIMM) を注文できません。顧客が初回リリース時に注文できる RDIMM は、8G バイトと 16G バイトだけです。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- 32G バイトの LRDIMM
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0

修正済みの版:

- 32G バイトの LRDIMM は、プラットフォームソフトウェアリリース 1.0.1 の時点で注文できます。

StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート Emulex HBA カードは Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムではサポートされません

問題:

StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート Emulex (SG-PCIE2FC-EM8-Z および SG-XPCIE2FC-EM8-N) ホストバスアダプタ (HBA) カードは、Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムではサポートされません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート Emulex (SG-PCIE2FC-EM8-Z および SG-XPCIE2FC-EM8-N)
- Oracle Solaris 11.1
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0 および 1.0.1

修正済みの版:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.1
- この問題は Oracle Solaris 11.1.13.6.0 で修正されました。

GRUB ブートローダーがシステム内の最初の 8 台のハードドライブからしかブートできない

15788976 (以前の CR 7165568)

問題:

一部のバージョンの GRUB ブートローダーは、システム内の最初の 8 台のハードドライブからしかブートできません。オペレーティングシステム (OS) とブートローダーを、オプション ROM が有効になっているホストバスアダプタ (HBA) に接続されているドライブレリスト内の 9 番目以降のドライブにインストールできます。ただし、OS のインストール後にシステムをリブートすると、GRUB ブートローダーは GRUB プロンプトでハングアップし、ディスクドライブから OS をロードするためにディスク I/O 操作を実行しません。

影響を受けるソフトウェア:

- Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) モードまたはレガシー (非 UEFI) BIOS モードを使用する Oracle Linux 6.3 および 6.4
- UEFI モードまたはレガシー BIOS モードを使用する Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.4
- レガシー BIOS モードを使用する SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 および SP3
- レガシー BIOS モードを使用する Oracle Linux 5.9
- レガシー BIOS モードを使用する RHEL 5.9
- レガシー BIOS モードを使用する Oracle VM 3.2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、および 1.1
プラットフォームソフトウェアリリース 1.2 で修正されました

前のソフトウェアリリースからの回避方法:

オペレーティングシステムと BIOS 構成に応じて、次のいずれかの解決方法を選択します。

解決方法 1 (すべてのオペレーティングシステムおよびレガシー BIOS または UEFI BIOS 構成のサポート):

1. ディスクドライブを再配列して、オペレーティングシステムとブートローダーをシステム内の最初の 8 台のディスクドライブのうち 1 つに再インストールします。この方法では、BIOS 設定ユーティリティを開始して、システムブートに使用されていないディスクドライブに接続されている HBA のオプション ROM を無効にする必要があることがあります。

BIOS 設定ユーティリティの開始と HBA のオプション ROM 設定の変更については、[Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド \(http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs\)](http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs) の、オプション ROM 設定の構成に関する手順を参照してください。

15788976 (以前の CR 7165568) (続き)

回避方法 2:

解決方法 2 (レガシー BIOS 構成での Oracle Linux 6.3 および 6.4 および RHEL 6.4 のサポート):

この手順では、OS の GRUB RPM を更新するプロセス、およびレスキュー環境からディスクドライブの MBR に GRUB を再インストールするプロセスの詳細を示します。

レスキュー環境からの GRUB MBR ブートコードの更新に関する詳細は、https://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_Enterprise_Linux/6/html/Installation_Guide/ap-rescuemode.html#Rescue_Mode-x86 を参照してください

始める前に、必要に応じて Oracle Linux 6.2 または RHEL 6.2 インストールメディアを入手する必要があります。

1. Oracle Linux 6.3 または 6.4 または RHEL 6.4 インストールブートメディアからシステムをブートします。
2. インストールプロンプトで、**linux rescue** と入力してレスキュー環境を開始します。
3. インストールメディア用のディレクトリを作成します。

```
mkdir /mnt/cd
```

4. インストールメディアをマウントします。

```
mount -o ro /dev/sr0 /mnt/cd
```

```
cp /mnt/cd/Packages/grub-0.97-75*rpm /mnt/sysimage
```

5. ルートパーティションでルート環境の変更を開始します。

```
chroot /mnt/sysimage
```

```
yum localupdate /grub-0.97-75*rpm || rpm -Uvh /grub-0.97-75*rpm
```

6. GRUB ブートローダーを再インストールします。

```
/sbin/grub-install bootpart
```

ここでは、*bootpart* はブートパーティション (通常は */dev/sda*) です。

7. */boot/grub/grub.conf* ファイルを確認します。GRUB が追加のオペレーティングシステムを制御するには、追加のエントリが必要な場合があります。

8. システムをリブートします。

```
> reset /System
```

15788976 (以前の CR 7165568) (続き)

回避方法 3:

解決方法 3 (UEFI BIOS 構成での Oracle Linux 6.3 および 6.4 および RHEL 6.4 のサポート):

この手順では、レスキュー環境から GRUB RPM を最新バージョンに更新することで *grub.efi* バイナリを更新するプロセスの詳細を示します。レスキュー環境からの GRUB RPM の更新

に関する詳細は、https://access.redhat.com/documentation/en-US/Red_Hat_Enterprise_Linux/6/html/Installation_Guide/ap-rescuemode.html#Rescue_Mode-x86 を参照してください。

始める前に、必要に応じて Oracle Linux 6.3 または 6.4 または RHEL 6.4 インストールメディアを入手する必要があります。

1. 必要に応じて、Oracle Linux 6.2 または RHEL 6.2 インストールブートメディアからシステムをブートします。
2. UEFI ブートローダーメニューで、`linux rescue` と入力してレスキュー環境を開始します。
3. インストールメディアをマウントします。

```
mount -o ro /dev/sr0 /mnt/cd
```

```
cp /mnt/cd/Packages/grub-0.97-75*rpm /mnt/sysimage
```

4. インストールメディア用のディレクトリを作成します。

```
mkdir /mnt/cd
```

5. ルートパーティションでルート環境の変更を開始します。

```
chroot /mnt/sysimage
```

```
yum localupdate /grub-0.97-75*rpm || rpm -Uvh /grub-0.97-75*rpm
```

6. ルート環境を終了します。

```
chroot env
```

7. レスキューモードを終了します。
8. システムをリブートします。

```
> reset /System
```

未解決の問題

サーバーに関する最新情報については、サーバーのドキュメントライブラリ <http://www.oracle.com/goto/x4-2/docs> で入手できます。

未解決の問題は、次のセクションにグループ化されます。

注記 - 未解決の問題の表には、問題がバグ ID 番号 (現在の Oracle BugDB バグ追跡システムによって割り当てられた識別番号) と変更リクエスト番号 (前のバグ追跡システムによって割り当てられた識別番号) 別に一覧表示されています。

- [34 ページの「ハードウェアの未解決の問題」](#)
- [42 ページの「Oracle System Assistant の未解決の問題」](#)
- [45 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムの未解決の問題」](#)
- [48 ページの「Linux オペレーティングシステムおよび仮想マシンの未解決の問題」](#)
- [57 ページの「Windows オペレーティングシステムの未解決の問題」](#)
- [59 ページの「ドキュメントの未解決の問題」](#)

関連情報

- [10 ページの「サポートされるファームウェアのバージョン」](#)
- [12 ページの「操作に関する重要な注意点」](#)

ハードウェアの未解決の問題

MegaRAID マウスポインタが、Oracle ILOM リモートコンソール上で動作しない

15584702 (以前の CR 6875309)

問題:

Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA 内蔵オプションカードを取り付け済みのサーバーで、Oracle ILOM リモートコンソール (マウスモードを「Absolute」に設定) を使用している場合、システムをブートして Ctrl + H キーを押し、LSI MegaRAID BIOS Utility を起動すると、ユーティリティーの左上部でマウスポインタが水平および垂直方向にのみ移動します。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA、内蔵オプションカード (SGX-SAS6-R-INT-Z および SG-SAS6-R-INT-Z)
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

Oracle ILOM リモートコンソールで、マウスモード設定を「Absolute」(デフォルト) から「Relative」モードに変更します。Oracle ILOM リモートコンソールを「Relative」モードに変更する方法については、Oracle ILOM 3.2 ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>) を参照してください。

UEFI BIOS とレガシー BIOS の切り替え時に UEFI 構成設定が失われることがある

15736328 (以前の CR 7080526)

問題:

UEFI BIOS とレガシー BIOS の切り替え時に、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) ブート優先順位リストの設定が失われることがあります。この問題は、レガシー BIOS でのみ動作する Pc-Check ユーティリティーを使用してシステム診断を実行することが必要な場合に発生することがあります。UEFI BIOS とレガシー BIOS を切り替える前に、UEFI 構成設定を保存するようにしてください。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

BIOS モードを切り替える前に、Oracle ILOM BIOS 構成のバックアップおよび復元機能を使用して構成設定を保存します。次に、UEFI モードに戻したあとで、BIOS 構成設定を復元します。UEFI 構成設定の保存に関する情報および手順については、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 ドキュメントライブラリで、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。

BIOS が、サーバーに直接接続されている USB キーボードまたはマウス、あるいはその両方に応答しないことがある

15735895 (以前の CR 7079855)

問題:

まれに、USB キーボード/マウスがサーバーに直接接続されているときに、BIOS がキーボードまたはマウス、あるいはその両方を認識しないことがあります。この問題が見られるのは、BIOS スプラッシュ画面の表示中に BIOS がキーの押下に応答しない場合です。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

ホストをリブートします。2 回または 3 回リブートしても問題が解決しない場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

任意のオペレーティングシステムツールまたはユーティリティを使用して UEFI ブート変数を管理 (作成、変更、または削除) すると、オペレーティングシステムの起動に必要なブート変数が失われる可能性がある

15818528

問題:

Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) モードでのオペレーティングシステムのインストール中に、オペレーティングシステムインストーラが、ブートするオペレーティングシステムを選択するための BIOS メニューで使用される UEFI ブート変数を作成します。オペレーティングシステムインストーラによって作成されるブート変数が失われるのを回避するために、これらのブート変数の管理 (作成、変更、または削除) にはどのオペレーティングシステムツールまた

はユーティリティも使用するべきではありません。ブート変数が失われると、ユーザーがオペレーティングシステムをブートできなくなります。

影響を受けるソフトウェア:

- サポートされているすべての UEFI 対応オペレーティングシステム
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

UEFI ブート変数が失われた場合は、新しい UEFI ブート変数を作成するためにオペレーティングシステムを再インストールします。

Oracle ILOM BIOS 構成のバックアップおよび復元に「Partial Restore」ステータスが報告されるべきではない

15790853 (以前の CR 7167796)

問題:

Oracle ILOM Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) BIOS 構成がロードされる時はいつも、構成ファイルに非アクティブパラメータ (BIOS の現バージョンでは無効になっているパラメータ) または入力ミスが含まれていることがあります。結果として、1 つ以上のパラメータのロードに失敗することがあります。これが発生すると、Oracle ILOM の `/System/BIOS/Config/restore_status` パラメータ (最後に試行された構成ファイルロードのステータスを保持している) によって、ロードが一部正常に行われたとして報告されます。`/System/BIOS/Config/restore_status` パラメータの値は、Oracle ILOM UEFI BIOS 構成ファイルが次回ロードされるまで変更されません。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle ILOM 3.1 および 3.2.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

1. テキストエディタを使用して、次のような内容の XML ファイルを作成します。

```
<BIOS>
```

```
</BIOS>
```

2. ファイルを任意の XML ファイル名で保存します。

この例で使用したファイル名は `bios_no_op_config.xml` です

3. 構成をロードするには、次のコマンドを入力します。

```
% load -source <URL_location>/bios_no_op_config.xml /System/BIOS/Config
```

4. ホストの電源が入っている場合は、次の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) コマンドを入力してホストをリセットします。

```
> reset /System
```

Emulex HBA: 「Scan Fibre Devices」が最初に実行されていない場合、UEFI の「Add Boot Device」を起動するとハングアップする

15785186 (以前の CR 7160984)

問題:

注記 - この問題は、EFIBoot バージョン 4.12a15 ファームウェアを実行している Emulex ホストバスアダプタ (HBA) のみで発生します。別のバージョンの HBA ファームウェアを実行している場合、この問題は発生しません。

「Set Boot From San」が「enabled」に設定されている Emulex ホストバスアダプタ (HBA) の「UEFI Driver control HII」メニューで、「Add Boot Device」機能を実行すると、「Please Wait」メッセージが約 3 - 5 秒間表示されて、システムがハングアップします。サーバーのハングアップ状態をクリアするには、サーバーをリセットする必要があります。

ただし、最初に「Scan Fibre Devices」機能を実行してから、「Add Boot Device」機能を実行した場合、「Add Boot Device」機能は正しく動作します。ハングアップ状態は、「Add Boot Device」機能を最初に実行した場合のみ発生します。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- EFIBoot バージョン 4.12a15 ファームウェアが適用された Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA Dual Port Emulex (SG-PCIE2FC-EM8-Z および SG-XPCIE2FC-EM8-N)
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

このハングアップ状態から回復するには、次のコマンドを入力してサーバーをリセットします。

```
-> reset /System
```

シングルプロセッサシステムでは、一部の Oracle ILOM Web インタフェースの「System Information」画面に表示される使用可能な Ethernet ポートと PCIe ポートの数が正しくない

15803551、15803553 (以前の CR 7183782、7183789)

問題:

シングルプロセッサシステムでは、Ethernet ポート NET 2 および NET 3 と PCIe スロット 1 は機能しません。ただし、次の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) Web インタフェース画面には、次のポートが使用可能として誤って表示されます。

- Oracle ILOM の「System Information」->「Summary」画面および「System Information」->「Networking」画面には、実際には 2 つの Ethernet NIC (NET 0 および NET 1) のみがサポートされ、使用可能なときに、サポートされる Ethernet NIC (ネットワークインタフェースコントローラ) の数が 4 と表示されます。
- Oracle ILOM の「System Information」->「PCI Devices」画面には、実際には 3 つの PCIe スロット (スロット 2, 3, および 4) のみがサポートされ、使用可能なときに、「Maximum Add-on Devices」が 4 と表示されます。また、この画面には、実際には NET 0 および NET 1 のみがサポートされ、使用可能なときに、オンボードデバイス (NIC) の数が 4 と表示されます。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- シングルプロセッサシステム
- Oracle ILOM 3.1 および 3.2.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0, 1.0.1, 1.1, 1.2, 1.3, 1.3.1

回避方法:

なし。

シングルプロセッサシステムでは、一部の Oracle ILOM CLI コマンドと Web インタフェースの「System Information」画面に表示されるサポートされる DIMM ソケットの数が正しくない

15803564 (以前の CR 7183799)

問題:

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) コマンド行インタフェース (CLI) では、シングルプロセッサシステムでサポートされる DIMM の最大数が 8 のときに、`show /System/memory` コマンドは誤って `max DIMMs = 16` を返します。

さらに、DIMM がプロセッサ 1 (P1) に関連付けられたソケットに誤って取り付けられている場合に、P1 が実際にはシステムに存在しなくても、次の Oracle ILOM CLI コマンドは、P1 に関連付けられた DIMM を示して誤った構成を識別します。ただし、DIMM はシステムで使用可能になりません。

- `> show /System/Memory/DIMMs`
- `> show /System/Memory/DIMMs/DIMM_n`。ここでは、*n* は 8 - 15 までの任意の数値です
- `> show /SP/powermgmt/powerconf/memory`
- `> show /SP/powermgmt/powerconf/memory/MB_P1_D0`

Oracle ILOM Web インタフェースでは、「System Information」->「Summary」画面と「System Information」->「Memory」画面には、シングルプロセッサシステムでサポートされる DIMM の最大数が 8 のときに、サポートされる DIMM の最大数が 16 と誤って表示されます。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- シングルプロセッサシステム
- Oracle ILOM 3.1 および 3.2.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

なし。

内蔵および外付けの Sun Storage 6G ビット SAS PCIe HBA カードを使用して構成されているサーバーでは、ストレージドライブがブート時に BIOS によって検出されない

15802805 (以前の CR 7182919)

15802805 (以前の CR 7182919) (続き)

問題:

PCIe スロット 4 に Sun Storage 6G ビット SAS PCIe 内蔵ホストバスアダプタ (HBA) が取り付けられ、外付け PCIe スロット (スロット 1、2、または 3) の 1 つに Sun Storage 6G ビット SAS PCIe 外部 HBA が取り付けられたサーバーが構成されている場合、BIOS のブート中にストレージドライブが検出されません。その結果、Pc-Check は内部ストレージドライブを検出およびテストせず、ユーザーは内部ストレージドライブをブートドライブとして指定できません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA (SG-SAS6-INT-Z および SGX-SAS6-INT-Z)
- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 外部 HBA (SG-SAS6-EXT-Z および SGX-SAS6-EXT-Z)
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

ブート時に内部ストレージドライブが検出されるように内蔵および外付け HBA カードを再構成するには、次の手順を実行します。

1. サーバーをリブートします。
BIOS がブートすると、「LSI Corporation MPT SAS2 BIOS」画面が表示されます。
2. 「Type Control+C to enter SAS Configuration Utility」メッセージが表示されたら、**ctrl+c** を押します。
「LSI Corp Config Utility」画面が表示されます。
内蔵 PCIe カード (SG-SAS6-INT-Z) は「Boot Order」に表示されません (番号を割り当てられていません)。
3. 右矢印キーを押して、「Boot Order」列を選択します。
4. Insert キーを押します (「Alter Boot List」)。
数値 1 が内蔵 PCIe カード (SG-SAS6-INT-Z) の横に挿入されます。

5. ブート順序を変更するには、- (マイナス) キーを押します (「Alter Boot Order」)。内蔵 PCIe カードのブート順序の番号が 0 (ゼロ) に変更され、外付け PCIe カード (SG-SAS6-EXT-Z) のブート順序が 1 に変更されます。
6. 矢印キーを使用して、外付け PCIe カードの「Boot Order」列を選択して、Del キー (「Alter Boot List」) を押して、ブート順序からそのカードを削除します。
7. LSI Corp Config Utility を終了するには、Esc キーを押します。「Exit Confirmation」ウィンドウが表示されます。
8. 「Exit Confirmation」ウィンドウで、「Save Changes and Reboot」までスクロールダウンして、Enter キーを押します。
9. BIOS 画面が表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティを開始します。BIOS の「Main」メニュー画面が表示されます。
10. BIOS の「Main」メニュー画面のメニューバーで「Boot option」を選択します。「Boot」メニュー画面が表示されます。
11. サーバーの内部ストレージドライブが「Boot」メニュー画面に表示されるようになったことを確認します。

これで、ブートリストの上部にする内部ストレージドライブを選択できます。

Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムによるブート時に DHCP リースを取得できない

16014346

問題:

自動ネゴシエーションプロセスの所要時間が 5 秒を超える構成では、次のメッセージが出てブートスクリプトが失敗することがあります。

```
ethX: failed. No link present. Check cable?
```

影響を受けるソフトウェア:

- Red Hat Enterprise Linux 5.9, 5.10, 6.4, および 6.5
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0, 1.0.1, 1.1, 1.2, 1.3, 1.3.1

回避方法:

ethtool ethX コマンドを使用してリンクの存在を確認できるときでもこのエラーメッセージが表示される場合は、`/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-ethX` で設定 `LINKDELAY=5` を試行します

注記 - リンク時間は最大 30 秒かかることがあります。それに応じて `LINKDELAY` 値を調整します。

仮想機能 (VF) デバイスドライバがゲストでアクティブになっているときに、物理機能 (PF) デバイスドライバを削除したあとで、サーバーがリブートすることがあります。

また、NetworkManager を使用してインタフェースを構成することもでき、この場合は設定タイムアウトが回避されます。NetworkManager を使用した構成手順については、オペレーティングシステムのディストリビューションに付属のドキュメントを参照してください。

PXE または Linux ISO イメージを使ってオペレーティングシステムをインストールしたあと、システムが、インストールの実行に使用されたネットワークポートへの IP アドレスの割り当てに失敗する可能性がある

15944904

問題:

PXE (Preboot eXecution Environment) または Linux ISO イメージを使ってオペレーティングシステムをインストールしたあと、オペレーティングシステムにはじめてログインする際に、ホストがネットワークインタフェースポート (NET 0-3) への IP アドレスの割り当てに失敗する可能性があります。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

/etc/sysconfig/network-scripts/ ディレクトリに格納されている ifcfg-ethx ファイルに LINKDELAY=10 という行を追加します。

UEFI BIOS ブートモードでの Emulex HBA の実行時に、「Add Boot Device」コマンドを使用するとシステムがハングアップする

18240994

問題:

BIOS 設定ユーティリティのメニューを使用して「UEFI Driver Control」->「Oracle Sun Storage 16Gb Fibre Channel LP」->「Add Boot Device」にアクセスすると、システムがハングアップします。

注記 - この問題は、UEFI BIOS ブートモードで実行されている Emulex ホストバスアダプタ (HBA) でのみ発生します。Emulex HBA をレガシー BIOS ブートモードで実行している場合、この問題は発生しません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics、Emulex (7101687 および 7101688)

- Sun Storage 16 Gb FC Short Wave Optics, Emulex (7101685 および 7101686)
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

BIOS 設定ユーティリティのメニューの使用時に、最初にコマンド「UEFI Driver Control」->「Oracle Sun Storage 16Gb Fibre Channel LP」->「Scan for Fibre Devices」を入力します。

サーバーのホストのリブート中にサービスプロセッサ (SP) をリブートすると、BIOS がハングアップすることがある

16346073

問題:

ホストのリブート中にサービスプロセッサ (SP) をリブートしようとする、サーバーの BIOS がハングアップすることがあります。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

サーバーの SP とホストは同時にリブートしないでください。

Oracle System Assistant の未解決の問題

Microsoft Windows Server で仮想 Ethernet デバイスが「インストールされていません」と報告される

15765750、17971455

問題:

ユーザーが Windows オペレーティングシステムのインストール時に Oracle Hardware Management Pack をインストールしなかった場合、仮想 Ethernet デバイスがインストールされていないことがデバイスマネージャーによって報告されます。

影響を受けるソフトウェア:

- Windows Server 2008 SP2
- Windows Server 2008 R2 SP1

- Windows Server 2012 および 2012 R2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

- このドライバを入手するには、Oracle System Assistant (デフォルト) の追加ツールとして入手可能な Oracle Hardware Management Pack をインストールします。
- このデバイスを無効にして、Windows デバイスマネージャーに表示されないようにするには、`ilomconfig disable interconnect` コマンドを使用します。Oracle Hardware Management Pack がインストールされていない場合、そのインストールを行わないと、`ilomconfig CLI` ツールを入手できません。あるいは、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) の Web インタフェースを使ってこのデバイスを無効にすることもできます。

Oracle System Assistant では、admin 役割 (a) 特権を持つユーザーのみが、Oracle ILOM サービスプロセッサファームウェアを更新できる

15783347 (以前の CR 7158820)

問題:

Oracle System Assistant を使用して Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサ (SP) ファームウェアを更新すると、ログインプロンプトが表示されます。ファームウェアの更新を実行するには、管理者、または高度な (a) 役割特権を持つユーザーとしてログインする必要があります。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

これは不具合ではありません。これは、正常な動作です。

Oracle System Assistant を使って Oracle ILOM サービスプロセッサファームウェアを更新する方法に関する手順については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

複数の 1.2T バイトの HDD または 4T バイトの HDD を更新しようとする、Oracle System Assistant によってエラーが生成される

18944217、19659654

問題:

Oracle System Assistant の「Update Firmware」タスクを使用して、複数の 1.2T バイトまたは 4T バイトのハードディスクドライブ (HDD) を更新しようとする時、エラーメッセージにデバイスの名前および状態「ERROR: Firmware download failed for component」が表示されます。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- 1.2T バイトの HDD
- 4T バイトの HDD
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

エラーメッセージにかかわらず、ディスクは更新されています。このメッセージは無視してかまいません。

Windows 用の Oracle Hardware Management Agent は、Oracle System Assistant を使用してインストールしたあと自動的に起動されない

19224214

問題:

Oracle System Assistant を使用して、Windows 2008 R2 SP1 または Windows 2012 R2 用 Oracle Hardware Management Agent をインストールし、「スタートアップの種類」を「自動」に設定すると、オペレーティングシステム (OS) のロード後にエージェントが自動的に起動しません。

影響を受けるソフトウェア:

- Windows 2008 R2 SP1
- Windows 2012 R2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

OS のロード後に Oracle Hardware Management Agent が自動的に起動できるようにするには、エージェントの「スタートアップの種類」を「自動 (遅延開始)」に設定します。「スタートアップの種類」を変更するには、次の手順を実行します。

1. Windows で、「コントロール パネル」に移動します。
2. 「管理ツール」を選択します。
3. 「サービス」を選択します。
4. 「サービス」メニューで、「Oracle Hardware Management Agent」を選択します。
5. 「Application Information のプロパティ」ダイアログボックスで、「スタートアップの種類」ドロップダウンリストから「自動 (遅延開始)」を選択します。
6. 「OK」をクリックします。

SLES 11 SP3、Oracle VM 3.3.1、または Oracle Linux 6.x 用の Oracle Hardware Management Agent (hwmgmt) は、Oracle System Assistant を使用してインストールしたあと自動的に起動されない

19390355

問題:

Oracle System Assistant を使用して、SUSE Linux Enterprise Server 11 SP3、Oracle VM 3.3.1、または Oracle Linux 6.x 用 Oracle Hardware Management Agent (hwmgmt) をインストールすると、オペレーティングシステム (OS) のロード後に hwmgmt が自動的に起動しません。

影響を受けるソフトウェア:

- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP3
- Oracle VM 3.3.1
- Oracle Linux 6.x
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

OS のロード後に hwmgmt が自動的に起動するように構成するには、root ユーザーとしてホストにログインしたあと、次のコマンドを発行します。

```
# service hwmgmt start
```

```
chkconfig hwmgmt on
```

Oracle Solaris オペレーティングシステムの未解決の問題

システムのブート中、コンソールに警告メッセージが表示されることがある

15777292 (以前の CR 7151581)

問題:

システムのブート時に「WARNING: npe1: no ranges property」がコンソールに表示されることがあります。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Solaris 10 1/13 および 11.1
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

このメッセージは無視してかまいません。

Oracle Solaris 11 プリインストールを使用すると、初回ブート時に 5 分の遅延が発生することがあります

問題:

Oracle Solaris 11 プリインストールオプションを使用する顧客が、初回ブート時に 5 分の遅延を経験することがあります。遅延の間、システムは `ilomconfig-interconnect` サービスを構成しています。これは、初回ブート時にのみ発生し、その後の再起動ではシステムは通常にブートします。システムの初回ブートをシステムコンソールからモニタリングしているお客様は、システムの起動がこの段階に達したあとで約 5 分間一時停止し、次の警告が表示されるのを観察します。

```
SunOS Release 5.11 Version 11.0 64-bit Copyright (c) 1983, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. WARNING: npel: no ranges property
```

バグ ID 15777292 (以前の CR 7151581) に記載されている「WARNING: npel: no ranges property」メッセージは別個の問題であり、この問題はそれと無関係であることに留意してください。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Solaris 11.1 および 11.2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

`ilomconfig-interconnect` サービスの構成が完了するのを待ちます。

Sun Storage 16 Gb FC PCIe ユニバーサル HBA、Emulex カードと Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics、Emulex トランシーバを使って Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムの PXE インストールを行おうとすると、インストールが失敗する

16734488

問題:

Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、Emulex カードと Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics、Emulex トランシーバを使って Oracle Solaris 11.1 (Support Repository Update [SRU] 適用済み) を PXE (Preboot eXecution Environment) でインストールすることはできません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、Emulex (7101683/7101684)
- Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics、Emulex (7101687/7101688)
- Oracle Solaris 11.1 (SRU 適用済み) および 11.2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、および 1.2

回避方法:

なし。

2.7 GHz、12 コア、130W のプロセッサが搭載されたサーバーで FMA 2 HA 機能を使用するには、インストール済みの Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムを SRU 11 でアップグレードする必要がある

17243186

問題:

サーバーに 2.7 GHz、12 コア、130W のプロセッサが含まれていて、障害管理アーキテクチャー (FMA) の 2 ホームエージェント (HA) 機能を使用する必要がある場合には、インストール済みの Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステムを使用する前に、そのオペレーティングシステムをサポートリポジトリアップデート (SRU) 11 でアップグレードする必要があります。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- 2.7 GHz、12 コア、130W のプロセッサが搭載されたサーバー
- インストール済みの Oracle Solaris 11.1 オペレーティングシステム
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

なし。

Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムの電源が切断しない

16816951

問題:

Gnome 電源マネージャー (GPM) デスクトップパッケージを含む Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムでは、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) の Web インタフェースやコマンド行インタフェース (CLI) を使って電源を切断できません。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Solaris 11.1 および 11.2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

Oracle Solaris 11.1 での回避方法:

注記 - この回避方法は、Oracle Solaris 11.1 でのみ使用してください。Oracle Solaris 11.2 で使用できる回避方法はありません。

GNOME 電源マネージャー (GPM) サービスを冗長オプションで実行します。

1. `/usr/share/dbus-1/services/gnome-power-manager.service` で、`Exec=/usr/bin/gnome-power-manager --verbose` と変更します
2. GNOME パネルのメニューリストから「システム」->「設定」->「スタートアップアプリケーション」を選択します。
3. 「電源マネージャー」->「編集」を選択し、コマンドを `gnome-power-manager --verbose` に変更します。

Linux オペレーティングシステムおよび仮想マシンの未解決の問題

VMware ESXi 5.0 Update 2 仮想マシンソフトウェアでオンボードのネットワークインストールコントローラ (NIC) を使用している場合、ixgbe ドライバをインストールするか、互換性のあるネットワークインタフェースカードを取り付けないかぎり、ネットワーク接続がサポートされない

問題:

Sun Server X4-2 で使用されている 10 ギガビット Ethernet (10GbE) コントローラ (X540) に必要なドライバは、VMware ESXi 5.0 Update 2 の一般提供リリースでは使用できません。

影響を受けるソフトウェア:

- VMware ESXi 5.0 Update 2 および Update 3

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

注記 - この問題は VMware ESXi 5.1 または 5.5 には影響しません。

回避方法:

次のいずれかのタスクを実行します。

- 必要なドライバを ESXi 5.0 Update 2 インストール ISO イメージに追加します。
- 標準のダウンロード ESXi 5.0 Update 2 ISO イメージと互換性のある PCIe ネットワークインタフェースコントローラ (NIC) カードをサーバーに取り付けます。

前述のタスクの実行方法については、『*Sun Server X4-2 VMware ESXi インストールガイド*』の「ネットワーク接続をサポートするための VMware ESXi ソフトウェアまたはサーバーハードウェアの構成」を参照してください。

オペレーティングシステムがブートして、mpt2sas ドライバをロードすると、dmesg にエラーが表示されることがある

15824191 (以前の CR 7205850)

問題:

オペレーティングシステムがブートして、mpt2sas ドライバを初期化すると、いくつかの AER (アプリケーションエラー報告) エラーが dmesg に表示されることがあります。dmesg には、Linux システムメッセージバッファの内容が表示されます。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle VM 3.2
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 および SP3
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

なし。これらのエラーは害がないため、無視してかまいません。

Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA FCoE カードが取り付けられていて、そのオプション ROM が UEFI BIOS モードで有効になっている場合、オペレーティングシステムがブートしない

16721610

問題:

Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA (ホストバスアダプタ) FCoE (Fibre Channel over Ethernet) カードが取り付けられていて、そのオプション ROM が UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) BIOS モードで有効になっている場合、システムは、GRUB メニューにブートし、システムカーネルのロードを開始したあと、Linux オペレーティングシステムのロードに失敗します。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、QLogic
- Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、Emulex
- Oracle Linux 6.3 および 6.4
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 および SP3
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

1. UEFI BIOS モードでシステムをブートします。
2. システム BIOS から、Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA カードのオプション ROM を無効にします。
3. 変更内容を保存し、システム BIOS を終了します。
4. Linux オペレーティングシステムをインストールします。

26 基のストレージドライブを備えたサーバー上でインストール済みの Oracle VM 3.2 ソフトウェアを使用すると、Oracle VM ソフトウェアでパニックが発生し、エラーメッセージが表示される可能性がある

17162275

問題:

26 基ストレージドライブ (前面 24 基、背面 2 基) 構成のサーバーでは、インストール済みの Oracle VM ソフトウェアでパニックが発生し、次のメッセージが表示される可能性があります。

```
mount: could not find filesystem '/dev/root'
```

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- 26 基ストレージドライブ構成のすべてのサーバー。
- Oracle VM 3.2
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

この問題を修正するには、次の手順を実行します。

1. Oracle VM ソフトウェアをリセットします。
2. GRUB (ブートローダー) のロード時に「`vmlinux...`」を含む行を編集し、「`sync_console`」パラメータを削除します。
3. Oracle VM が正常にブートされたあと、「`/boot/grub/grub.conf`」ファイルを編集してブートセクションから「`sync_console`」という文字列をすべて削除します。

Oracle Linux 6.3 または 6.4 を iSCSI ターゲット HDD にインストールしようとする、インストールが失敗する

15807672

問題:

Oracle Linux 6.3 または 6.4 オペレーティングシステムのインストール準備を行う際に UEFI BIOS ブートモードを選択したあと、オペレーティングシステムを iSCSI ターゲットハードディスクドライブ (HDD) にインストールしようとする、インストールが失敗します。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Linux 6.3 および 6.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

Oracle Linux 6.3 または 6.4 OS のブートモードをレガシー BIOS ブートモードに設定したあと、インストールを行います。

Intel Xeon E5-2600 V2 シリーズのプロセッサが搭載された Oracle Linux 6.4 が稼働する x86 サーバー上で、プロセッサが特定の C 状態に遷移しない

16870068

問題:

Intel Xeon E5-2600 V2 シリーズのプロセッサが搭載された Oracle Linux 6.4 が稼働する x86 サーバー上では、プロセッサがプロセッサ C 状態 C3 と C6 に遷移しません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Intel Xeon E5-2600 V2 シリーズのプロセッサ
- Oracle Linux 6.4 オペレーティングシステム

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

/boot/grub/menu.lst のカーネル行の末尾にカーネルパラメータ「intel_idle.max_cstate=0」を追加し、サーバーをリブートします。

電力制限が設定された状態で Oracle Linux 5.9 または 6.4 OS がブートされたあと、電力制限を撤廃するコマンドが発行されても、プロセッサの速度が低いままになる

16728705/17181067

問題:

OS ブートまたはサーバー電源再投入の完了後、Oracle Linux 5.9 または 6.4 オペレーティングシステム (OS) が電力制限を撤廃するための `_PSS` および `_PPC` コマンドの実行に失敗します。その結果、プロセッサの最高速度での実行が失敗します。

影響を受けるソフトウェア:

- Oracle Linux 5.9 および 6.4
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

1. 変更対象の CPU ID を取得します。`# cat /proc/cpuinfo | grep processor`
2. CPU の最大サポート周波数を取得します。`# cat /sys/devices/system/cpu/cpu<N>/cpufreq/cpuinfo_max_freq`ここで、<N> は、手順 1 で取得した変更対象の CPU ID です。
3. 各 CPU ID の `scaling_max_freq` が、手順 2 で取得した CPU の最大サポート周波数より小さいことを確認します。`# cat /sys/devices/system/cpu/cpu<N>/cpufreq/scaling_max_freq`
4. 各 CPU ID (手順 3 で表示された値が手順 2 に比べて低い) の新しいスケーリング最大周波数をカーネルに伝えます。`# echo $max_frequency /sys/devices/system/cpu/cpu<N>/cpufreq/scaling_max_freq`ここで、`$max_frequency` は手順 2 で確認した最大周波数です。
5. 新しいスケーリング最大周波数を確認します。`# cat /sys/devices/system/cpu/cpu0/cpufreq/cpuinfo/scaling_max_freq`

UEFI BIOS ブートモードで Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA QLogic カードのオプション ROM を有効にすると、SLES 11 ISO イメージのブートが失敗する

16817765

問題:

Sun Storage 16 Gb Fibre Channel PCIe Universal HBA QLogic カードが装着されているサーバーでオプション ROM が有効化され、UEFI BIOS Boot Mode が選択されている場合に、SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 の ISO イメージのブートに失敗します。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、QLogic (7101674)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 および SP3
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

BIOS 設定で、Sun Storage Dual 16 Gb Fibre Channel PCIe Universal HBA、QLogic が装着されている PCIe スロットの opROM オプションを無効にします。

Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release for Linux が実行されている RHEL 6 または 7 OS または Oracle Linux 6 または 7 OS 上の BurninTest 3.1 で、カーネルパニックが発生する

17047864

問題:

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6 または 7 または Oracle Linux 6 または 7 オペレーティングシステム上で PassMark BurninTest Linux V3.1 を実行したあとでシステムをリブートまたはシャットダウンすると、シャットダウン手順の最後の段階でカーネルがパニックを起こす可能性があります。このカーネルパニックはシステムの動作に影響を及ぼしません。エラーメッセージを無視してサーバーの電源再投入や切断を行ってもかまいません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Intel の 100G バイトおよび 400G バイトの SSD
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux が実行されている Oracle Linux 6.4
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux が実行されている Oracle Linux 6.5 および 7.0
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 2 for Linux が実行されている Red Hat Enterprise Linux 6.4
- Oracle Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Linux が実行されている Red Hat Enterprise Linux 6.5 および 7.0
- BurnInTest3.1

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

この構成のシステムでは PassMark BurninTest Linux V2.1 を使用します。

非 RAID ボリュームが存在する場合、VMware ESXi 5.x は Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA を使用して構成されているシステムにインストールできない

16373075

問題:

非 RAID ボリュームが存在する場合、ESXi 5.0、5.1、および 5.5 およびそれ以降の更新は Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA を使用した構成にインストールできません。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (内蔵)
- VMware ESXi 5.0、5.1、および 5.5、およびそれ以降の更新。
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA を使用して構成されているシステムに ESXi をインストールする場合は、RAID ボリュームのみを使用してください。

PCIExpress Gen 3 HBA 用 Sun デュアルポート QDR InfiniBand ホストチャンネルアダプタを SLES 11 SP3 で使用する場 合、IPoverIB のスループットが低下する

19528387

問題:

IPoverIB (IP over InfiniBand) のスループットの低下は、PCIExpress Gen 3 HBA 用 Sun デュアルポート QDR InfiniBand ホストチャンネルアダプタを SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP3 で使用する場合に起こります。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- PCIExpress Gen 3 用 Sun デュアルポート QDR InfiniBand ホストチャンネルアダプタ (7104073 および 7104074)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP3

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

Mellanox の Web サイトから Mellanox OpenFabrics Enterprise Distribution for Linux (MLNX_OFED) をダウンロードしてください。

1. http://www.mellanox.com/downloads/ofed/MLNX_OFED-2.2-1.0.1/MLNX_OFED_LINUX-2.2-1.0.1-sles11sp3-x86_64.iso で MLNX_OFED_LINUX v2.2-1.0.1.iso をダウンロードします。
2. MLNX_OFED_LINUX v2.2-1.0.1.iso をインストールします。`./mlnxofedinstall --without-fw-update`
3. iperf テストを実行します。`x86bj069:/mnt # /root/iperf -c 10.1.1.2 -t 10 -P 8 -w 128k -i 2`

Sun Storage 10 Gb FCoE HBA カードが取り付けられていて、そのオプション ROM が UEFI BIOS モードで有効になっている場合、UEK Release 3 を備えた Oracle Linux 7.0 がブートしない

19521738

問題:

Sun Storage 10 Gb FCoE (Fibre Channel over Ethernet) HBA (ホストバスアダプタ) カードが取り付けられていて、そのオプション ROM が UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) BIOS モードで有効になっている場合、システムは、GRUB メニューにブートし、システムカーネルのロードを開始したあと、Oracle Linux 7.0 オペレーティングシステムのロードに失敗します。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics、QLogic (7101677 および 7101678)
- Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 を備えた Oracle Linux 7.0
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

1. UEFI BIOS モードでシステムをブートします。
2. システム BIOS から、Sun Storage 10 Gb FCoE HBA カードのオプション ROM を無効にします。
3. 変更内容を保存し、システム BIOS を終了します。

オペレーティングシステムのインストール時に、インストール先ディスクを複数回パーティション分割した場合、Oracle Linux 7.0 のインストールで不明なエラーメッセージが報告される

19140366

問題:

オペレーティングシステムのインストール時に、インストール先ディスクを複数回パーティション分割した場合、Oracle Linux 7.0 のインストールで不明なエラーメッセージが報告されます。このエラーが原因でインストールが失敗し、ユーザーは、インストールプロセスを終了するか、バグを報告するかしか選択できません。

次のエラーメッセージが報告されます。

```
An unknown error has occurred This program has encountered an unknown error.You may report the bug below or quit the program.
```

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Oracle Linux 7.0
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

Oracle Linux 7.0 オペレーティングシステムのインストール時には、インストール先ディスクを複数回パーティション分割しないでください。

Oracle System Assistant の使用時に、Linux オペレーティングシステムがインストールされないことがある。

19274609、19232280、および 19044611

問題:

システム BIOS を UEFI モードに設定して Oracle System Assistant を使用すると、Oracle Linux、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) などの Linux オペレーティングシステムがインストールされないことがあります。

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Oracle Linux 6.3、6.4、6.5、および 7.0
- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 および SP3
- Red Hat Enterprise Linux 6.4、6.5、および 7.0
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

システム BIOS を出荷時のデフォルトにリセットするには、次の手順を実行します。

1. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「System Management」>「BIOS」>「Settings」>「Reset to Defaults」>「Factory」とクリックして、「Save」をクリックします。

3. システムをリブートして、BIOS をロードします。
4. ブートモードを UEFI に変更します。

Oracle System Assistant を使用して Linux オペレーティングシステムをインストールできるようになりました。

RHEL 7.0 または Oracle Linux 7.0 のインストール後、Oracle ILOM Fault Manager に「dmarxd_poisoned_data_from_dp_stat」メッセージが表示される

19293318

問題:

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.0 または Oracle Linux 7.0 をインストールしたあとで、サーバーでウォームリセットを実行すると、Oracle ILOM Fault Manager によって次のエラーが報告されます。

```
ereport.io.intel.iilo.dmarxd_poisoned_data_from_dp_stat
```

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.0
- Oracle Linux 7.0
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

RHEL 7.0 または Oracle Linux 7.0 のインストール前に、サーバーの BIOS 設定ユーティリティで Intel I/O Acceleration Technology (IOAT) を無効にします。IOAT を無効にするには、次の手順を実行します。

1. BIOS 設定ユーティリティを起動します。手順については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。
2. BIOS 設定ユーティリティで、「IO」メニューに移動します。
3. 「IOAT」を選択します。
4. 「Intel IOAT」を選択して、「Disabled」を選択します。
5. F10 を押して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。

Windows オペレーティングシステムの未解決の問題

Windows ダウンロードの解凍時に、「パスが長すぎます」エラーが発生することがある

15758199 (以前の CR 7116803)

問題:

My Oracle Support (MOS) からダウンロードした Windows パッケージを Windows Server 2008/2008 R2 のデフォルト圧縮ユーティリティを使用して解凍する際、パスが長すぎることを示すエラーが発生することがあります。パスの長さは Windows オペレーティングシステムによって決められます。

ドライブ文字、コロン、バックスラッシュ、バックスラッシュで区切られた名前要素、および末尾の NULL 文字を含む最大パスは、260 文字と定義されています。パッケージを解凍するディレクトリレベル、またはパッケージの解凍に使用するツールによっては、最大パス長を超える場合があります。

影響を受けるソフトウェア:

- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

サードパーティー製の圧縮ユーティリティを使用します。サードパーティー製のユーティリティの中には、Windows のデフォルト圧縮ユーティリティとは異なり、より長い最大パス長を使用できるものがあります。

Windows Server 2012 のインストール時に致命的な WHEA エラーが発生する

15890512

問題:

プリインストール版の Oracle Linux 6.x オペレーティングシステムを含むハードディスクドライブ (HDD) に Windows Server 2012 をインストールすると、Windows ハードウェアエラーアーキテクチャー (WHEA) エラーが発生します。

影響を受けるソフトウェア:

- インストール済みの Oracle Linux 6.x
- Windows Server 2012
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.0、1.0.1、1.1、1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

Windows 2012 をインストールする前にシステムの BIOS 設定を出荷時のデフォルトにリセットします。

Oracle System Assistant を使用して Windows 2012 R2 をインストールすると、fwupdate コマンドで QLogic HBA カードが一覧表示されない

19224464

問題:

Oracle System Assistant を使用して Windows 2012 R2 をインストールすると、サーバーにインストールされている OLogic HBA カードが `fwupdate list controller` コマンドで一覧表示されません。Oracle System Assistant で QLogic (qauc1i) ユーティリティーがインストールされないために、この問題が発生します。

影響を受けるソフトウェア:

- Windows 2012 R2
- Sun Storage デュアル 16 Gb ファイバチャネル PCIe ユニバーサル HBA、QLogic (7101673 および 7101674)
- Sun Storage 10 Gb FCoE Short Range Optics、QLogic (7101677 および 7101678)
- StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA デュアルポート、QLogic (SG-PCIE2FC-QF8-Z および SG-XPCIE2FC-QF8-N)
- プラットフォームソフトウェアリリース 1.2、1.3、1.3.1

回避方法:

QLogic (qauc1i) ユーティリティーは、Oracle System Assistant を使用して手動でインストールする必要があります。

ドキュメントの未解決の問題

このセクションでは、ドキュメントの未解決の問題について説明します。

- [60 ページの「物理メディアのリクエストがサポートされなくなった」](#)
- [60 ページの「X4-2 ドキュメントセットに古い URL が出現する」](#)
- [60 ページの「『Sun Server X4-2 サービスマニュアル』の更新内容」](#)
- [61 ページの「『Sun Server X4-2 VMware ESXi インストールガイド』の更新内容」](#)
- [62 ページの「『Sun Server X4-2 Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』の更新内容」](#)
- [62 ページの「『Sun Server X4-2 Oracle VM インストールガイド』の更新内容」](#)

- 62 ページの「『Sun Server X4-2 Linux オペレーティングシステムインストールガイド』の更新内容」
- 62 ページの「翻訳されたドキュメントで省略したタイトルが使用される」

物理メディアのリクエストがサポートされなくなった

ファームウェアおよびソフトウェアの更新は、My Oracle Support Web サイトからダウンロードできます。これまで、手続き上、Oracle Web サイトからダウンロードできなかった場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) を Oracle に対して発行することで最新のソフトウェアリリースパッケージを入手できました。PMR を発行するための推奨の方法は、My Oracle Support Web サイトを使用することでした。しかし、Oracle はファームウェアとソフトウェアの更新のための無料の物理メディアを今後提供しません。さらに、ソフトウェアアプリケーションまたはオペレーティングシステムの物理メディアパックは配信のために提供されなくなりました。Oracle Software Delivery Cloud をアプリケーションおよび OS のダウンロードに使用できます。サーバードキュメントの「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」章における PMR の発行手順は、適用されなくなりました。14 ページの「OS またはソフトウェアアプリケーションのダウンロード」も参照してください。

X4-2 ドキュメントセットに古い URL が出現する

次の Sun Server X4-2 ドキュメントには古いまたは壊れた URL が含まれています。正しい URL は、Red Hat Enterprise Linux サイトの製品ドキュメントに移動します。壊れた URL および正しい URL を次に示します。

E38045 – Sun Server X4-2 の HTML ドキュメントコレクション

- 壊れた URL: http://access.redhat.com/site/documentation/Red_Hat_Enterprise_Linux
- 修正された URL: <https://access.redhat.com/site/documentation/en/red-hat-enterprise-linux/>

『Sun Server X4-2 サービスマニュアル』の更新内容

サーバーに組み込まれている Oracle System Assistant USB フラッシュドライブに付属の『Sun Server X4-2 サービスマニュアル』には、次の修正が必要です。

- TLI は、配電盤 (PDB)、マザーボード (MB)、およびディスクバックプレーン (DBP) のコンポーネントの FRUID (現場交換可能ユニット識別子) に保存されます。この記述は正しくありません。TLI は実際には、電源 0 (PSU 0)、マザーボード (MB)、およびディスクバックプレーン (DBP) に格納されています。
- BIOS 設定ユーティリティの「IO」メニューの「PCI Subsystem Settings」オプションは、デフォルトで無効になっています。この記述は正しくありません。この BIOS オプションのデフォルト設定は「enabled」です。このオプションを有効にした場合の影響の詳細は、17 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 では、BIOS 設定ユーティリティの「IO」メ

ニューで「PCI Subsystem Settings」オプションを有効にすることはサポートされない」を参照してください。

- 「電源装置を取り付ける」手順に次のノートを追加する必要があります。

注記 - 電源 0 の交換後に、FRU トップレベルインジケータ (TLI) データを新しい電源に伝播するために、Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) をリセットする必要があります。SP のリセット手順については、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs>) を参照してください。電源 1 には FRU TLI データは格納されていないため、交換後に SP をリセットする必要はありません。

『Sun Server X4-2 サービスマニュアル』には、サーバーにプロセッサを取り付ける際の誤った手順と例が記載されています。「プロセッサを取り付ける」手順 16a および 16b の手順と例を次に置き換えてください。

- a. サーバーの障害を表示するには、**Oracle ILOM CLI** を使用して **root** としてサーバーにログインし、次のコマンドを入力してサーバーのすべての既知の障害を一覧表示します。

```
> show /SP/faultmgmt
```

次のように、サーバーは既知の障害をすべて一覧表示します。

```
> show /SP/faultmgmt
Targets:
  0 (/SYS/MB/P0)
Properties:
Commands:
  cd
  show
```

- b. 手順 16.a で確認した障害をクリアするには、次のコマンドを入力します。

```
> set /SYS/MB/P0 clear_fault_action=true
```

次に例を示します。

```
> set /SYS/MB/P0 clear_fault_action=true
Are you sure you want to clear /SYS/MB/P0 (y/n)? y
Set 'clear_fault_action' to 'true'
```

『Sun Server X4-2 VMware ESXi インストールガイド』の更新内容

サーバーに組み込まれている Oracle System Assistant USB フラッシュドライブに付属の『Sun Server X4-2 VMware ESXi インストールガイド』では、VMware ESXi ソフトウェアのサポートされているバージョンが正しく一覧表示されていません。正しいバージョンは、5.0 Update 2 と Update 3、5.1 Update 1 と Update 2、5.5、および 5.5 Update 1 です。

『Sun Server X4-2 Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』の更新内容

サーバーに組み込まれている Oracle System Assistant USB フラッシュドライブに付属の『Sun Server X4-2 Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』では、Oracle Solaris オペレーティングシステムのサポートされるバージョンが正しく記載されていません。正しいバージョンは 10 1/13、11.1 および 11.2 です。

『Sun Server X4-2 Oracle VM インストールガイド』の更新内容

サーバーに組み込まれている Oracle System Assistant USB フラッシュドライブに付属の『Sun Server X4-2 Oracle VM インストールガイド』では、Oracle VM ソフトウェアのサポートされるバージョンが正しく記載されていません。正しいバージョンは、3.2 および 3.3 です。

『Sun Server X4-2 Linux オペレーティングシステムインストールガイド』の更新内容

サーバーに組み込まれている Oracle System Assistant USB フラッシュドライブに付属の『Sun Server X4-2 Linux オペレーティングシステムインストールガイド』では、Oracle Linux および Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムのサポートされるバージョンが正しく記載されていません。正しいバージョンは次のとおりです。

- Oracle Linux: 5.9、5.10、6.3、6.4、6.5、および 7.0。
- Red Hat Enterprise Linux: 5.9、5.10、6.4、6.5、および 7.0。

翻訳されたドキュメントで省略したタイトルが使用される

PDF ドキュメントの翻訳済みバージョンでは、省略したドキュメントタイトルが相互参照に使用されています。次の表に、完全なドキュメントタイトルに対応する省略したタイトルを示します。

表 3 完全なドキュメントタイトル

省略したドキュメントタイトル	完全なドキュメントタイトル
設置	Sun Server X4-2 設置ガイド
Oracle Solaris インストール	Sun Server x4-2 Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド
Oracle VM インストール	Sun Server X4-2 Oracle VM インストールガイド
Linux インストール	Sun Server X4-2 Linux オペレーティングシステムインストールガイド
Windows インストール	Sun Server X4-2 Windows オペレーティングシステムインストールガイド

省略したドキュメントタイトル	完全なドキュメントタイトル
VMware ESXi インストール	<i>Sun Server X4-2 VMware ESXi インストールガイド</i>
サービス	<i>Sun Server X4-2 サービスマニュアル</i>

